

天にいます私たちの父
よ マタイ6章9節

天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。 マタイ6：9

今日、6月14日は父の日ですね。私たちの真の父について、主の祈りから学びましょう。

祈りについてイエス様は隠れたところで祈るようにと教えられました。人前で祈ろうが個室で祈ろうが、ただ神様にのみ向かって祈ることが大切なのです。

さて、主の祈りですが多くの人々にとって、いつも祈っていてその意味がわかっていない祈り、深く考えないでつい祈ってしまう祈りなのかもしれません。多くの教会の礼拝で必ず祈られていて、皆にしつかりと暗記されてはいるが、ただそれだけといった祈りでもあるようです。

私たちは今朝、主の祈りの意味について考えてみたいと思います。

イエス様は、まず私たちに「天にいます私たちの父よ」と、神様に向かって呼びかけるようにと教えられました。ある牧師は言いました。「ここにキリスト教信仰の結論がある。」

———— 父よ

————

・まず第1に、「天にいます私たちの父よ」という呼びかけで、主の祈りは始まります。しかし、原文で最初に出てくることばは「父よ」です。イエス様も、まず「父よ」と呼びかけるようにと教えています。しかし、すでに旧約聖書においても、神はイスラエルの父であると語られていますし、ユダヤ人たちは神様を「父よ」と呼びかけて祈っていました。イザヤ64：8節「しかし、今、主よ、あなたは私たちの父です。」

ところがここで、ここで主イエスご自身が「父よ」と祈られたことばは、何とアラム語の「アバ」でした。

これは乳離れした幼児が最初に覚える言葉の一つです。ですから父なる神様に「パパ」とか「お父ちゃん」呼びかけることになります。旧約時代は、その様な子供の言葉、日常の言葉で、聖なる神様の名を呼ぶことは、絶対にありませんでした。

しかし、主は私たちに勧めておられます。「それくらい親しんで安心して祈りなさい」と。

それにしても、なんと素晴らしい特権でしょうか。天地万物の創造者であるお方を「お父さん」「パパ」と呼ぶことができるとは。

(証) あのイサクが、献げられる時、父アブラハムの全てを信頼して、その父の顔を見つめていた光景を想像しましょう。

—— 私たち

の ——

・第2は「私たちの父よ」です。「天にいます私たちの父よ」原文では「父よ」の呼びかけの次に「私たちよ」が続きます。「私の父よ」ではなく「私たちの父よ」と祈るのです。それにしても良く注意してみると、主の祈りはいつも「私たち」です。「私たちの日ごとの糧を・・・」「私たちの負い目

を・・・」「私たちを試みに合わせないで・・・」といった具合に、いつも一人称複数です。ここから教えられることは、

・ 信仰は確かに個人的です。私の信仰であり、あなたの信仰です。密室でひとりで神様と一対一で祈ることはとても大切です。まず私たちはひとりで神の前に立つのです。しかし、一人で神の前に立つ時、私たちはひとりではないことに気がきます。自分は神の家族の中の一人であることに気づくのです。

・ また「私たちの父よ」と祈る時、真の神は、私一人の神ではなく、私たちみんなの神様であることに気づかされます。天の父に心を開く時、共に祈っている兄弟姉妹にも心が開かれていきます。私は一人ではなく、兄弟姉妹と共に生きているのです。「私たちの父よ」と祈って、暖かな家族の一員であることを感じましょう。「私の父よ」も大切です。でも神様と出会ったら、次は皆で共に「私たちの」神様の前に進みたいです。

———— 天にいま

す ———

・ さて第3です。主の祈りは教えます。「父よ」と祈るだけでなく、「私たちの父よ」と祈るだけでなく、「天にいます私たちの父よ」と祈るようにと・・・。

天地の主なる神は、確かに慈愛に満ちた方、私たちに良きものだけを与えて惜しまない方、私たちの罪を赦し受け入れてくださる方です。そんな神を私たちは心から信頼して「お父さん」と呼ぶことができます。

しかしです。ただそれだけでは、私たちの神概念は偏っているかも知れません。神は「私たちの神」であると共に、「天にいます神」なのです。

・私たちの肉親と比較してみましょう。（地上の父には申し訳ないですが）

私たちの肉の父は、どことなく頼りないかも知れません。反発したくなるかも知れません。尊敬できない時があるかも知れません。子供を無視して放っておく父、気まぐれで、虫の居場所が悪いと怒鳴り散らす父、無気力な父、だらしない父……。確かに私たちの「地上の父」は、そうなのかも知れません。

・けれども、神は天にいます父です。広大無辺の宇宙を創造する力を持っておられる方です。更に、私たちの細胞の一つ一つに細やかな手を加えられた方です。。永遠から永遠へと存在される方、小鳥にさえぐりを与え、どんな造化も及ばない、生きているいのちあふれた美を創造された方、人間の知恵を持って量ることのできない絶対者です。

・ですから「思い違いをしてはいけません。神は侮（あなど）られるような方ではありません。・・・」ガラテヤ6：7節 私たちは、自分の都合の良いように神を利用しようとしてはいいのでしょうか。神は「便利屋さん」ではありません。。

・また「天にいます」と祈りながら、祈りが聞かれることを初めから、期待していない、ということはないのでしょうか？それは神を神としない態度です。でも、私たちの父は「天にいます父」私たちの思いも及ばない計画を持ち、完全な愛と義をもって、私たちを養い育てることのできる父です。私たちの祈りには、打てば響くように誠実を持って答えてくださる神様なのです。

ですから、祈りましょう。「天にいます私たちの父よ。」

しっかりと、この神様に呼びかけましょう。

——— 天のお父さ

ん ———

沢田美喜の伝記の中にこんな話があります。戦後の時代、美喜の施設はまだ人々に理解されず、好奇心やあざけりの気持ちで多くの人々が見ていました。まだまだ日本でも人種的偏見が強かったのです。

——— 愛の中に生き

る ———

彼女はそんな不幸な境遇の中でも、この施設にやってきた孤児たちに、いつも聖書のことばを教えていました。「あなた方の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」この子どもたちが決して卑屈にならないように、堂々と胸を張って歩んで行けるように、愛の中に生きることが出来るように育てていました。それでもホームから外に出ればいろいろなことが起こります。

——— 「主の祈り」知って

いる？ ———

そんなある日、みんなで町を歩いていた時のことでした。4, 5人の男の子が連れ立って向こうからやって来て、すれ違いざまに、いつものようにひどいことばを投げつけて来ました。「やい、親なしっ子！」「パンパンの子！」「お父さんがいないくせに。くやしかったらここに連れて来てみろ！」美喜は、かっとして得意の柔道で投げ飛ばしてやろうかと思いました。ところがその時でした。サミという混血児の子が、静かな声で学童たちに言いました。「あんたたち、主の祈り知っている？」「天にまします われらの父よ」っていうお祈りを。僕たちには、天にお父さんがいるんだ！」

——— もう大丈夫

だ　———

近くまでハラハラしながら見ていた美喜は思わずこの子を抱きしめました。学童たちは、そのまま何も言わずに行ってしまいました。美喜は知りました。「この子たちは、もう私が守ってやらなくても、この人生の荒波を泳ぎ切ってゆく力をつけていたのだ。もう大丈夫だ」と。